

議事日程

令和元年7月30日(火)

午後1時00分開会

開会

日程第1 会期の決定

日程第2 市長挨拶

日程第3 一般質問

関城中学校

明野中学校

協和中学校

下館中学校

下館西中学校

下館南中学校

下館北中学校

日程第4 教育長講評

写真撮影

出席議員

下館中学校	高崎	久翔	君
	川越	夢将	君
	飯島	麻加	君
下館西中学校	和田	雄太	君
	森田	琴弓	君
	中田	陽菜	君
下館南中学校	深谷	麻衣	君
	森澤	華凜	君
	菊池	海空	君
下館北中学校	川崎	望鈴杏	君
	一本杉	絢乃	君
	白井	康聖	君
関城中学校	野口	友花	君
	大木	優来	君
	塚田	真未	君
明野中学校	飯田	麻裕	君
	赤城	瑞穂	君
	飯島	駆琉	君
協和中学校	塚越	涼夏	君
	西山	沙希	君
	岡村	翔洋	君

説明のため出席した者

市長	須 藤 茂 君
副市長	菊 池 雅 裕 君
教育長	赤 荻 利 夫 君
市長公室長	日 向 裕 次 君
総務部長	高 島 健 二 君
企画部長	関 口 貴 一 君
人口対策部長	相 澤 一 幸 君
税務部長	須 藤 昌 則 君
市民環境部長	鈴 木 建 國 君
保健福祉部長	中 澤 忠 義 君
こども部長	児 玉 祐 子 君
経済部長	關 紀 良 君
土木部長	猪 瀬 弘 明 君
上下水道部長	柴 武 司 君
会計管理者	谷 中 茂 美 君
教育部長	小野塚 直 樹 君
農業委員会事務局長	山 形 浩 之 君
秘書課長	鈴 木 敦 史 君

議会事務局職員出席者

事務局長	鈴 木 徹 君
書記（学務課長）	飯 山 正 幸 君
書記	田 崎 和 彦 君

〔議長 菊池海空君議長席に着く〕

○議長（菊池海空君） 私は、本日の子ども議会で前半の議長を務めさせていただきます下館南中学校の菊池海空と申します。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

会議に入ります前に執行部を紹介いたします。

鈴木議会事務局長、お願いいたします。

- 議会事務局長（鈴木 徹君） 初めに、市長、須藤茂君。
 - 市長（須藤 茂君） よろしくお願ひします。
 - 議会事務局長（鈴木 徹君） 次に、副市長、菊池雅裕君。
 - 副市長（菊池雅裕君） よろしくお願ひいたします。
 - 議会事務局長（鈴木 徹君） 市長公室長、日向裕次君。
 - 市長公室長（日向裕次君） よろしくお願ひします。
 - 議会事務局長（鈴木 徹君） 総務部長、高島健二君。
 - 総務部長（高島健二君） よろしくお願ひいたします。
 - 議会事務局長（鈴木 徹君） 企画部長、関口貴一君。
 - 企画部長（関口貴一君） よろしくお願ひします。
 - 議会事務局長（鈴木 徹君） 経済部長、關紀良君。
 - 経済部長（關 紀良君） よろしくお願ひします。
 - 議会事務局長（鈴木 徹君） 土木部長、猪瀬弘明君。
 - 土木部長（猪瀬弘明君） よろしくお願ひいたします。
 - 議会事務局長（鈴木 徹君） 人口対策部長、相澤一幸君。
 - 人口対策部長（相澤一幸君） よろしくお願ひします。
 - 議会事務局長（鈴木 徹君） 反対側の席でございます。
- 教育長、赤荻利夫君。
- 教育長（赤荻利夫君） よろしくお願ひします。
 - 議会事務局長（鈴木 徹君） 教育部長、小野塚直樹君。
 - 教育部長（小野塚直樹君） よろしくお願ひいたします。
 - 議会事務局長（鈴木 徹君） 保健福祉部長、中澤忠義君。
 - 保健福祉部長（中澤忠義君） よろしくお願ひします。
 - 議会事務局長（鈴木 徹君） こども部長、児玉祐子君。
 - こども部長（児玉祐子君） よろしくお願ひします。
 - 議会事務局長（鈴木 徹君） 市民環境部長、鈴木建國君。
 - 市民環境部長（鈴木建國君） よろしくお願ひします。
 - 議会事務局長（鈴木 徹君） 税務部長、須藤昌則君。
 - 税務部長（須藤昌則君） よろしくお願ひします。
 - 議会事務局長（鈴木 徹君） 上下水道部長、柴武司君。

- 上下水道部長（柴 武司君） よろしくお願ひいたします。
- 議会事務局長（鈴木 徹君） 農業委員会事務局長、山形浩之君。
- 農業委員会事務局長（山形浩之君） よろしくお願ひいたします。
- 議会事務局長（鈴木 徹君） 会計管理者、谷中茂美君。
- 会計管理者（谷中茂美君） よろしくお願ひいたします。
- 議会事務局長（鈴木 徹君） 戻りまして、秘書課長、鈴木敦史君。
- 秘書課長（鈴木敦史君） よろしくお願ひいたします。
- 議会事務局長（鈴木 徹君） 最後に、私、議会事務局長、鈴木徹でございます。よろしくお願ひいたします。

以上でございます。

- 議長（菊池海空君） ただいまの出席議員は21人であります。
定数に達しておりますので、ただいまから令和元年度筑西市子ども議会を開会いたします。
直ちに本日の会議を開きます。
本日の議事日程は、お手元に配付した日程表のとおりであります。
これより議事日程に入ります。
日程第1、「会期の決定」についてを議題といたします。
お諮りいたします。子ども議会の会期は、本日1日といたしたいと思ひます。これにご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

- 議長（菊池海空君） ご異議なしと認めます。
よって、会期は本日1日と決定いたしました。
日程第2、「須藤市長のご挨拶」をお願ひいたします。

〔市長 須藤 茂君登壇〕

- 市長（須藤 茂君） 皆様、改めまして、こんにちは。市長の須藤茂でございます。令和元年度の筑西市子ども議会の開催に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げたいと思っております。

子ども議会につきましては、筑西市の将来を担う市内7つの中学校から代表して21名の方にご出席をいただいているところでございます。赤荻教育長がいつも言っております。市内中学校は、みんな生徒たちは文武両道、大したものだと、いつも報告を受けているところでございまして、その代表の皆様がこうして子ども議会に出席いただくということは、大変私としても、そして執行部としてもうれしい限りでございます。

子ども議会の皆さん、今座っている議席でございますけれども、これは日ごろ市議会議員の皆様、そして我々執行部がいろいろ市の問題点、あるいは課題点につきまして、けんけんがくがく、いろいろとやるところでございまして、議論をする、とても神聖な場所でございます。子ども議会議員として着座された皆様の凛とした姿を見まして、私も強いうれしきと申ひますか、皆様の熱意を感じるところでございます。

さて、元号も令和となりまして、新しい時代がスタートいたしました。筑西も未来に向け、新たな取り

組みを考えていく必要があります。本日は、今後の市政運営に参考になるご意見あるいはご提案をいただけるものと期待しているところでございます。皆様、これから議場で大勢の皆さんのところでいろいろとお話しするのも少し緊張するかもしれませんが、自信を持って質問をしていただきたいと思います。

私はいつも思うのですが、私の部屋に書いてあるのです。一人では何もできない。そして、職員、議員、市民の皆様にもいろいろご意見をいただいて、少しでもいい市政を運営していきたいと思っていますところでございます。私は、いつも議員さんに相談するのです。議員さんも市民の皆様から選ばれた人、私も市民の皆様から選ばれた人、同じなのです。答えは一つで、この筑西市をいかによくなるか、いかに住みやすい場所にするか、そういうところをこの議場でお話をいろいろ、けんけんがくがく、議論をしているところでございます。皆さんの質問に対して、私ども執行部は誠心誠意答弁をさせていただき、これからのまちづくりに生かしてまいりたいと考えておりますので、どうかよろしくお願いを申し上げます。

結びになりますが、本日の子ども議会の開催に当たりましてご尽力を賜りました各学校の校長先生、そして指導教諭の皆様方並びにご父兄の皆様方に御礼を申し上げます、開催の言葉とさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。

終わります。

○議長（菊池海空君） ありがとうございます。

日程第3、「一般質問」を行います。

この際、申し上げます。議事の都合により、本日の一般質問についての各議員の発言は、筑西市への提言と質問を2つずつ各校ごとにまとめ、通告順に発言をする方式といたします。

それでは、関城中学校、野口友花君、大木優来君、塚田真未君、お願いします。

〔関城中学校 野口友花君、大木優来君、塚田真未君登壇〕

○議長（菊池海空君） それでは、1つ目の提言、質問をお願いします。

○関城中学校（野口友花君） 私は、筑西市の商業について提言します。

現在、私の住む関城地区を含め筑西市では高齢化や若者の商店街離れなどの影響を受けて閉店する店や、開店していても客足の伸びないお店がふえているという情報を知りました。

私や私の身の回りで生活する人たちも、便利で種類が豊富、短時間で利用できるという理由から車で行く市外の商業施設やインターネット通販を利用する人が増加しています。そんな中でも、関城をはじめとして筑西市内の商業を活性化していくことは急務だと考えます。

例えば週末などに商店街の一部を歩行者天国にして定期的に魅力あるイベントを開催するなど、人が集まるような催し、まちづくりを進めてみてはどうでしょうか。

また、その際に地元の商店街の方にも参加していただき、自分のお店の特色を足を運んでくれたお客さんにどんどんPRしていく機会をつくってみてはと思います。そうすることで、祇園まつりのようにまちじゅうに若者があふれ活気あるまち、商店街をつくっていくことができるのではないかと考えました。なかなか若者には訪れにくい商店街との交流の機会をつくることで、若者が気軽に立ち寄れて、身近

にある商店街がもっと活性化できるといいなと考えます。

○関城中学校（塚田真未君） ここで質問します。

商店街などの商業施設をどのように活性化させると今以上のにぎわいを見せるとお考えですか。また、商店街を活性化させるために市はどのような対策を立てていますか。

○議長（菊池海空君） 続きまして、2つ目の提言、質問をお願いします。

○関城中学校（大木優来君） 私からは筑西市の農業について提言します。

筑西市は、近年、農業産出額や米の収穫量が茨城県内でトップを占めています。しかし、農業を行っている人は年々減少し、高齢化が進んでいます。これは、筑西市の農業に対して非常に大きな問題だと思います。

このような状態がこの先何年も続くと農業を行う人がいなくなり、現在、私たちが食べている米や野菜を食べることができなくなるかもしれません。これは筑西市や茨城県だけでなく全国でも言えることですが、農業従事者減少に向けた対策を行っていけば、農業を「やりたい」と言う若者がふえていくと思います。

そこで、近隣市町村や都会に住んでいる人に向け、農業の楽しさや大切さをアピールする活動、体験活動を実施し、どんどんPRしてはどうかと考えました。最近の若者には、農業に触れる機会はほとんどなく「やってみたい」、「体験したい」と言う人は多くいるはずですが、また、あるテレビ番組では、週末だけ地方に行って農業を行っていた人が、農業の楽しさに触れ、移住したという内容を紹介していました。筑西市で農業や農業体験を行うことで、ぜひ筑西市に移住して農業を行ってみたいという人がふえてくれればいいのではないかと考えました。

○関城中学校（塚田真未君） ここで質問します。

これからも筑西市が誇る特産品を守り続け、全国トップクラスの品質や生産量を保っていくために、どのようにして農業の後継者不足を解消していこうとお考えですか。また、農家の方々が生産しやすい環境をつくっていくためにはどうすべきだとお考えですか。

○議長（菊池海空君） 関城中学校の質問に答弁願います。

須藤市長、お願いいたします。

〔市長 須藤 茂君登壇〕

○市長（須藤 茂君） 3人の議員さんにお答えをしたいと思います。

質問を受けますと、全くそのとおりだな、おっしゃっている質問のとおりだなと、頭が痛くなる思いがいたしました。

まず、1つ目、商店街の活性化、にぎわいについての質問でございますけれども、先週から今週の日曜日の朝まで下館祇園まつりがありました。これにつきましては、やはり感じることは、こんなにも人がいるのだ、こんなに大勢の人がいるのだ。やはり先ほど言いましたように、何かアイデアさえあれば、20万人から25万人ぐらいいらしていただくわけですが、あの10分の1ぐらいはいつも歩いていてもらえるのだと。やはり何かアイデアがあると、いつも思っているところでございます。

そういうわけで、にぎわいのある活性化のまちづくり、商店街づくりでございますけれども、皆様ご承

知のとおり、今月、道の駅グランテラス筑西がオープンいたしまして、多くの方が来ていただいております。きょうも、私、行ってまいりましたが、来場者数、ちょっと駅長に聞きましたらば、大勢ですから数えるわけにはいきませんので、レシートを通っている数が1日平均7,000人ぐらいだそうでございます。計算上は、7,000人掛ける2.5倍というものですから1万7,500人。そんなには多分来ていないと思うのですが、1万人以上は来ていただいているわけございまして、この道の駅を中心に何とかしていきたいと思っております。

そして、このグランテラス筑西が、若者を含めた多くの方々に訪れていただきまして、重要な拠点、地域といたしまして捉えているところでございます。そして、加えまして、駅から循環バス、坂を上りまして下館二高さんの前を通って小松崎病院さん、それから道の駅を通って、また戻ってくるというようなコミュニティバス、それからここから筑波山の下まで行くバス、それと駅前と5カ所ぐらいに自転車、コミュニティサイクルが設置してありますので、そういうものを利用して、この下館駅周辺の施設あるいは商店街、食堂等を利用していきたい。そういう連携を図っていききたいと思っているところでございます。

その一方で、ただいまのご提言のとおり、近ごろはインターネット通販あるいは市外の大型商業施設の利用者がふえまして、そこは全くおっしゃるとおりでございますので、そういう傾向は大変だなと。私も何とかしなくてはいけないなと思っているところでございます。

一つの対策といたしまして、筑西市では、市内での消費を活性化させるために、筑西市内だけで使えるポイント制度の導入に向けて、今準備を進めているところでございます。この制度を利用していただき、市内での消費がふえ、商店街を初め市内全体が活性化いたしまして、今以上のにぎわいが生まれるように期待をするところでございます。

次に、農業についてでございますけれども、筑西は環境に恵まれまして、恵まれた環境の中で理想的な農業関係ができていっていると思っているところでございます。その中で、水稻、麦・大豆、梨、それから常陸秋そばなんかも、ほとんど筑西でつくったものを日立のほうへ持っていつているような状況でございます。そういうものを含めると、県内でも有数な農業地と思っているところでございます。

しかしながら、議員さんのご提言、ご質問のとおり、農業従事者の高齢化あるいは後継者不足、そして耕作放棄地の増加、栽培技術の承継など、さまざまな問題が生じていることは確かでございます。そのために、後継者対策といたしまして、農業にチャレンジしたい方、あるいは興味を持っている方への情報発信や都内での情報交換の実施。さらに、今、筑西市では台東区、上野から浅草あたりですけれども、台東区の皆様方に本市においでいただきまして、いろいろ農業体験もしていただく。そのようなことも考えているところでございます。それが私の回答でございますが、もうちょっと詳しいことを部長に報告させますので、よろしくお願いを申し上げたいと思います。

以上でございます。

○議長（菊池海空君） 關経済部長、答弁をお願いいたします。

○経済部長（關 紀良君） 関城中学校の議員さんのご質問にご答弁いたします。

ご質問の商店街などの商業施設の活性化やにぎわいづくりにつきましては、議員さんがおっしゃるように、経営者が高齢になり後継者がいないため閉店してしまうという問題、それと市外の大型商業施設、ま

たインターネット通販の利用増加による地元商店街への影響は大きいというようなものでございます。関城地区を含め、市内の商業活性化対策は急務であるということは認識しております。

本市では、下館祇園まつり、どすこいペア、明野ひまわりフェスティバル、小栗判官まつりの4大祭りのほかにも多数のイベントを実施し、多くの皆様にご来場いただいております。また、商工まつり等におきましても多くの地元の商店街の皆様に出店いただいております。しかしながら、商店街がにぎわうためには、イベントでの一時的な集客だけではなく、日常的な集客が課題であるというように考えております。

そのためにも、先ほど須藤市長が申しましたように、今年11日にオープンしました道の駅グランテラス筑西、これを拠点としまして、下館駅前からの運行するコミュニティバスやコミュニティサイクル、これの活用を促進しながら駅周辺の活性化を図っていききたいというふうに思っております。

また、商店街活性化対策でございますが、本市には筑西市商業地域空き店舗等活用事業というものがございます。この事業は、市街化区域にある空き店舗等に新たに出店する方を対象に改装費や賃借料の一部、これを補助する事業でございます。空き店舗の解消とともに、新たに店舗ができるということで地域の活性化につながるというように考えております。

2つ目の農業に関する質問でございますが、初めに、どのようにして農業の後継者不足を解消していくのかというご質問でございますが、農業従事者の高齢化や後継者不足を背景に農家数は減少しております。国が行う統計調査、これによりますと農林業センサスの平成27年度農家数は4,178戸、前回の調査、平成22年度と比較しますと、5年間で891戸が減少しております。新たに農業を始める新規就農者及び農業後継者の確保というものは、喫緊の課題となっているように思います。

そのため、筑西地域の行政機関、これは県西農林事務所、筑西市、下妻市、桜川市をいいます。それと、JA等農業者団体、これはJA北つくば農協、常総ひかり農協、それと県農業経営士協会をいいます。これが連携して、新規就農希望者に対し就農支援事業を行っております。

昨年度の具体的な内容としましては、新規就農者にかかわる情報交換を行うとともに、就農相談会である新農業人フェア in いばらき2018、これは会場はイーアスつくばでやっております。それと、雇用就農マッチング会 in 県西ということで、会場はアルテリオですが、これに参加し、就農希望者と雇用を必要とする農業法人とのマッチングに参画しております。

さらに、全国有数の栽培面積、生産量を誇る本市の梨の産地振興と新規就農を進めるため、梨農家や梨の生産組合の支援を受け、梨の栽培技術を学び、梨農家として新規就農を目指す筑西市地域おこし協力隊を現在募集しているところでございます。

また、本市と東京都台東区におきまして、両市の活性化並びに住民等の交流を促進するため連携協定を結んでおります。台東区のイベントでの農産物のPRや区内団体の方々を対象にして農産物収穫体験なども催し、積極的に市外の方々への魅力発信も実施しておるところでございます。

続きまして、農家の方々が生産しやすい環境をどのようにつくっていくのかということでございますが、地域農業の担い手が規模拡大や経営力を強化するため、トラクター、汎用コンバインなどの大型で高性能な農業機械を導入するときの支援、それと農業経営を強化するため個人経営から株式経営等にする法人化するための支援、また分散する農地を集積、集約し、効率的な農業を行うための農地集積事業を積極的に

実施するとともに、道が狭い、用水、それと排水が不便、それと農地の区画が狭いというような営農環境を改善するため、国、県と協力して農業基盤整備による農地の効率のよい農業生産を後押ししていくというところでございます。

今後も効果的な取り組みを行い、農業後継者の確保と、農業者が生産しやすい環境づくりに努めてまいりますので、ご理解をお願いしたいと思います。

以上でございます。

○議長（菊池海空君） 関口企画部長、答弁をお願いいたします。

○企画部長（関口貴一君） 関城中学校の議員さんのご質問にお答えいたします。

筑西市が導入を進めておりますポイント制度でございますが、この制度はマイナンバーカードにポイントをためられる機能をつけ加えまして、そのポイントを市内でのショッピング等で使えるようにするというもので、マイキープラットフォームと呼ばれる制度です。

現在は制度の導入に向けた仕組みづくりを行っているところでございますので、これまで検討してきました内容についてご説明いたします。

まず、ポイントのため方でございますけれども、市が指定する事業あるいはボランティア活動などに市民の皆様が参加した際にポイントがつけ加えられます。どのような事業に参加した場合に、どのくらいのポイントを付与するかなどについては、現在検討しているところでございます。また、クレジットカードなどを利用した場合にもポイントをチャージすることができるようになります。

次に、ポイントの利用でございますが、市内の商店や市のインターネットショップなどでお買い物の際に、1ポイント1円としてご利用いただくことができます。このポイントは、筑西市内の商店でしか使うことができませんので、市内での消費がふえ、商店街などの活性化に貢献できるものと考えております。

この事業を実現するためには、地域が一体となって取り組む必要がありますので、今後、市民の皆様のご理解とご協力をいただきながら進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（菊池海空君） 次に、明野中学校、飯田麻裕君、赤城瑞穂君、飯島駆琉君、お願いします。

〔明野中学校 飯田麻裕君、赤城瑞穂君、飯島駆琉君登壇〕

○議長（菊池海空君） それでは、1つ目の提言、質問をお願いします。

○明野中学校（飯田麻裕君） 私たちはスポーツ施設の充実を提言いたします。

筑西市は面積約205平方キロメートルで、霞ヶ浦とほぼ同じ面積を誇り、平坦な地が多く、東に筑波山を望むとても住みよいまちです。

広い土地がたくさんあるので、その土地を利用して大型のスポーツ施設をつくってはいかがでしょうか。特に、毎年行われている高校野球は、県西地区では開催されていないのが現状です。県西地区でも高校野球が行われる硬式野球場の建設が必要であると思います。人の流れが活発になれば、消費も上向き、活性化されるのではないのでしょうか。

また、私たち中学生は、県西総体陸上競技会を古河の総合運動公園で行っています。陸上の短距離走やマラソンなどが注目される中、公認記録仕様の陸上競技場をつくとよいと思います。現在、上平塚にあ

下館総合運動公園では、12月にちくせいマラソンが開催されていますが、健康志向をテーマに市民が集い、速さを競うのではなく、レクリエーションを目的とした陸上競技会などが開催されると、市民の触れ合いの場ともなり盛り上がるのではないのでしょうか。

以上です。

○明野中学校（飯島駆琉君） ここで質問させていただきます。

筑西市は、旧下館市に野球場や総合体育館、旧協和町にサッカー場や県西公園テニス場など、スポーツ施設が散在しているのが現状です。筑西市の平坦で広い土地を利用して、陸上競技場、硬式野球場、サッカー場、テニス場などが入る大型のスポーツ施設を建設してはいかがでしょうか。そこには子どもたちが学んで遊べる公園も併設して、市民の憩いの場としてみてはいかがでしょうか。

○議長（菊池海空君） 続きまして、2つ目の提言、質問をお願いします。

○明野中学校（赤城瑞穂君） 私たちは下館駅北口の再開発を提言いたします。

昔の北口稲荷町通りは、アーケード街でお店が林立し、とてもにぎわいを見せていたそうです。しかし、現在は郊外における大型商業施設の建設などで買い物客も少なく、余り活性化されていないのが現状です。駅前を活性化するためにも、駅をおりて徒歩で買い物に行ける場が必要となります。

今後、高齢化社会を迎え、高齢者による自動車事故が多くなる一方、免許証を自主返納する方も出てくることが予想されます。そこで懸念されるのは、高齢者の買い物難民が増加することです。買い物難民を出さない方法として、レンタサイクル事業を展開し、どこにでも買い物に行けるようにしたり、栃木市のようにシャッターによる戸閉めのお店を市でレンタルしてテナントを募集し、筑西市の特産物やB級グルメのお店を開店したり、旧市役所跡に大型商業施設を誘致したりして活性化を図る必要があると思います。

また、大型店舗と提携して移動販売や宅配事業を展開することも有効な手段であると考えます。

○明野中学校（飯島駆琉君） ここで質問させていただきます。

筑西市は65歳以上の高齢者が28%を超え、少子高齢化社会と言っても過言ではないでしょう。今後、買い物難民がふえることが予想されるため、レンタサイクルや徒歩で買い物に行けるようにするために、稲荷町通りを含めた下館駅北口の再開発で活性化を図ることはできないのでしょうか。

○議長（菊池海空君） 明野中学校の質問に答弁願います。

須藤市長、お願いいたします。

〔市長 須藤 茂君登壇〕

○市長（須藤 茂君） 明野中学校の議員さんの2つ目の質問にお答えしたいと思います。

下館駅北口の再開発につきまして、おっしゃるとおりでございます。正直なところ頭が痛いところでございますが、筑西市は、先ほど言いましたように買い物難民をつくらないということで、2007年、今から12年ぐらい前にデマンドタクシーというものをつくりました。これは300円で、市内でしたらどこでも行けるという便利なものでございまして、先ほど言いましたように65歳以上の方が非常にふえている状況の中で、足がないということで、デマンドタクシーをつくりまして、「のり愛くん」という名称でございますけれども、それで一生懸命利用して、病院とか買い物とか行っていたという状況でございます。

そして、下館駅周辺でございますけれども、先ほど言いましたように、駅前にスマートフォンを利用し

て開始しましたレンタサイクル、これは電動アシストでございますので、坂なんかは踏まなくてはいけませんけれども、軽く踏んだだけで上がっていけるような電動アシスト式のレンタサイクルでございますけれども、この前は、駅前から利用してくださった方がどこへ行ったかといいますと、古河の隣の野木町まで自転車で行きまして、そこへ置いてもいいわけですので、そこへ引き取りに行きましたけれども、どこでも行ける。それを利用しますと、市内はどこでも、今のは市外の話ですから、市内はどこでも行けるような、そういうレンタサイクルを始めました。

あるいは、7月から、先ほど言いましたように道の駅循環バスを始めました。雨の日など、二高生の方なんかは駅からバスで行って、かなり利用していただいたり、そういうこともしております。200円でございますが、定期を買えばもっと安くなりますので、そういう利用の仕方もあると思っております。

公共交通の環境が整ってきておりますので、道の駅や商店街などのまち歩き等に利用していただきたいと思っております。

また、下館駅北口でございますけれども、これまでに道路の幅を広げたり、あるいは皆さんご存じのように電線の地中化などもやりまして、歩道が広くなりました。そういう意味で、歩く方あるいは自転車の移動もしっかりとできるような環境になってきているところでございます。

今後も、鉄道、バス、「のり愛くん」、タクシー、そして自転車、さまざまな公共交通を利用いただきまして、地域が活性化できますよう、関係者の皆さんと協力をしながら今後も考えていきたいと思っております。

詳しくは部長に報告させますので、よろしくお願いを申し上げます。

○議長（菊池海空君） 赤荻教育長、答弁をお願いいたします。

〔教育長 赤荻利夫君登壇〕

○教育長（赤荻利夫君） 明野中学校の議員さんの1つ目のスポーツ施設に関するご質問に答弁いたします。

今、議員さんがおっしゃってくださったように、本当に広々とした、とても住みよいまちが私たちの筑西市であります。ご存じのとおり、筑西市内には野球場をはじめとする運動施設が地区ごとによく整備されており、多くの市民に利用していただいております。

議員さんご提案の筑西市の平坦で広い土地を利用して、硬式野球場とか陸上競技場、サッカー場、テニスコートなどが入る大型スポーツ施設の建設でございますが、整備しようとする、まとまった建設用地の確保や建設費用が多額になることから、筑西市の規模にふさわしいスポーツ施設のあり方を考える必要があります。

教育委員会では、現在、スポーツ施設の維持管理や、これからのスポーツ施設の方向性を検討するために、ことし3月に「筑西市多目的運動場の整備に関する調査報告書」というのをまとめたところでございます。その中で、筑西市におけるスポーツ施設のあり方等について、議員さんご提案の子どもたちでも学んで遊べる公園もあわせて整備するなど、市民の憩いの場となるように検討してまいりたいと考えております。

詳しいことにつきましては部長から答弁してもらいますので、よろしくお願いをいたします。

○議長（菊池海空君） 小野塚教育部長、答弁をお願いいたします。

○教育部長（小野塚直樹君） 明野中学校の議員のご質問に答弁いたします。

この筑西市が管理運営していますスポーツ施設は、体育館などの建物が11施設ございます。それから、野球、サッカー、テニスなどができる運動場が12施設、合わせて23の施設を管理運営しているところでございます。

これらスポーツ施設の管理運営は、平成30年度、昨年度から指定管理者制度という、これは民間の事業者でも運営ができる方法をとってございます。そこで、筑西市では、皆様もご存じのようにミズノスポーツが管理運営をしているところでございます。そういったことから、これからは、なお一層民間事業者のノウハウも活用して、たくさんの市民の方が憩えるような場としていけるよう考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（菊池海空君） 関口企画部長、答弁をお願いいたします。

○企画部長（関口貴一君） 明野中学校の議員さんの2つ目の下館駅北口再開発についてのご質問にお答えいたします。

筑西市では買い物難民をつくらないために、市内全域でデマンドタクシー「のり愛くん」の運行を行っているところでございます。これは平日であれば、市内のどこへでも300円で移動できる公共交通手段でありまして、通院や買い物などでたくさんの方にご利用いただいているところでございます。

下館駅周辺につきましては、先ほど市長からもありましたように、ことしの4月からレンタサイクルがご利用いただけるようになりました。料金は15分60円、24時間以内であれば最大1,000円でございます。市内5カ所でございますけれども、スピカビルのちょうど下、それと美術館、それと道の駅、それと駅南にももう1カ所あります。そういった形でサイクルステーションを設置しまして、借りた場所でなくても別のステーションに返却することも可能でございます。誰もが気軽に使うことができますので、どうぞご利用いただきたいと思います。

なお、自転車は電動アシストつきでございますので、先ほど市長がご答弁しましたように、坂道や長距離を走るのにも適しております。最初に使うときに、スマートフォン、こちらでの登録が必要となりますが、市役所の職員、あるいは道の駅の観光コンシェルジュが登録のお手伝いをしておりますので、よろしくをお願いします。

また、今月7月からは、下館駅北口と道の駅グランテラス筑西を結ぶ道の駅循環バスの運行を開始しました。1周約30分のルートで、高校や病院、スーパーなどの近くで乗り降りすることができます。料金は1乗車200円で、交通系ICカードのスイカあるいはパスモといったカードも使うことができます。そのほかに、筑西市バス共通1日券を500円で発売しております。こちらを利用しますと、市内を走る筑西市バスが500円で1日乗り放題になりますので、明野地区あるいは玉戸方面からのバスの乗り継ぎにも便利です。ご利用いただきたいと思います。

下館駅は、休日になりますと、SLを目的としました観光客もたくさん訪れておりまして、そういった方々にも自転車やバスを使って市街地を回っていただくことで、にぎわいをつくり出すこともできるもの

と考えております。今後も関係する皆様と協力しながら、地域の活性化に努めてまいりたいと思います。

サイクルステーション、5カ所なのですけれども、先ほど言いましたように、スピカビルの庁舎の下と道の駅、美術館、駅南と、あと中央図書館、計5カ所です。

以上でございます。

○議長（菊池海空君） 次に、協和中学校、塚越涼夏君、西山沙希君、岡村翔洋君、お願いします。

〔協和中学校 塚越涼夏君、西山沙希君、岡村翔洋君登壇〕

○議長（菊池海空君） それでは、1つ目の提言、質問をお願いします。

○協和中学校（塚越涼夏君） 私たち中学生は、実は交通弱者に含まれるのだそうです。交通弱者はお年寄りのことだと思っていましたが、中学生の私たちも、徒歩と自転車以外に自分の意思で自由に移動できる手段はなく、遠くへの移動には電車やバスなどの公共交通を使う必要があります。

現在、筑西市にはJR水戸線、関東鉄道常総線、真岡鐵道真岡線の3路線が走っているほか、広域連携バス、地域内運行バス、道の駅循環バスの3路線が走るようになりました。しかし、私たちの地元協和地区を見てみると、水戸線は日中1時間に1本と運転本数が少なく、またバスも走っていません。どこかに行こうと思っても、不便さを感じるのが現状です。

筑西市の人口は、令和元年7月1日現在10万4,469人ですが、65歳以上の高齢者は3万1,604人で、30.2%を超える超高齢社会です。2年前と比べて、高齢者の割合は1.5%もふえています。高齢者の事故が社会問題になり、運転免許を返納する人もふえています。今後、筑西市でも免許を返納する高齢者がふえることが予想され、どうやって交通弱者の移動手段を確保するかが大きな課題になります。私たち中学生も、公共交通が便利になって、もっと自由に移動できるようになってほしいと願っています。

そこで、私たちは、今ある電車やバスの利便性を高めることに加えて、より多くの地域に便利で手軽に移動できる交通手段、例えば新たな地域内運行バスの運行や、駅などの拠点からラストワンマイルの目的地を結ぶ自動運転サービスなどの導入を提案します。

○協和中学校（岡村翔洋君） ここで質問させていただきます。

筑西市に住む市民だけにとどまらず、筑西市を訪れる人も気軽に利用できる交通手段を、さらにふやしていく計画はあるのでしょうか。交通弱者に含まれる私たち中学生や、免許を返納した高齢者はもちろん、いろんな市民のニーズを取り入れて、学校や病院、商業施設に行きやすくなるように、より多くの路線を設定し運行していただけると、生活しやすいまちづくりにつながると思います。市のお考えをお聞かせください。

○議長（菊池海空君） 続きまして、2つ目の提言、質問をお願いします。

○協和中学校（西山沙希君） 筑西市はマイカー保有率がとても高い地域で、自動車検査登録情報協会が発行する「わが国の自動車保有動向」平成30年版によると、1世帯当たりの自動車保有台数は全国最多の1.866台となっています。このことから、筑西市はマイカー依存度がかかなり高い地域と言えます。

最近、運転に不安を感じたお年寄りが運転免許を返納する動きが広まってきています。長年車に頼ってきた人が車を手放すと、外出の機会が減り、体や頭を動かすことが減ってしまうため、次第に老け込んでしまう人が少なくないそうです。

一方、都会のお年寄りには若いと言われる。都心で生活しているお年寄りは、電車やバスを使いこなし、乗りかえや階段の上りおりを苦にせず、結構な距離でも歩いて移動するため、出かけること自体がよい運動になり、健康寿命が長く保てるのだそうです。

そこで、私たちは、健康寿命を延ばしながら、まちの活性化も行える「歩いて楽しいまちづくり」を提案したいと思います。例えば、駅前商店街をショッピングモールのように見立てて、いろいろなお店を誘致したり、多くの人が集まるイベントを開催したりすれば、若い人もお年寄りもいろいろなところを歩いて楽しめるのではないかと思います。そのためには、これまで以上に商店街を歩きやすくすることが大切で、思い切って車の乗り入れを制限することも考えてよいのではないかと思います。いかがでしょうか。

○協和中学校（岡村翔洋君） ここで質問させていただきます。

筑西市には幾つかの商店街がありますが、宇都宮のオリオン通りのような歩行者専用の商店街はありません。私たちが提案する「歩いて楽しいまちづくり」には、マイカーの通行を制限したり、歩行者専用か、歩行者優先の移動空間を確保したりすることも検討すべきではないかと考えているのですが、筑西市としてそのようなお考えはありますか。また、健康寿命を延ばすために、今後、市ではどのような取り組みをお考えになっているのでしょうか。

○議長（菊池海空君） 協和中学校の質問に答弁願います。

須藤市長、お願いいたします。

〔市長 須藤 茂君登壇〕

○市長（須藤 茂君） 協和中学校の議員さんのご質問にお答えをしたいと思います。

まず、交通弱者の移動手段でございますけれども、先ほどおっしゃいました水戸線を初めとする鉄道が3路線、それから路線バスがあるのですけれども、今回、7月の末から、今、末ですけれども、道の駅から東京の八重洲口まで、金額を言ってどうかわかりませんが、安い金額で行ける直行バスも始まりました。それに加えて、そのバスとタクシー事業者を加えて、重要ないろいろな交通手段を考えているところでございます。そして、実行しているところでございます。

協和地区の、確かに新治駅の近くの方は水戸線を利用すればいいわけですが、しかしながら協和地区も広うございまして、北部、南部、水戸線の新治駅を中心として、そういう方たちはなかなか交通手段がない。そこで、「のり愛くん」デマンドタクシーを利用していただくようにPRしているわけですが、それでもなおかつ、なかなか利用できないという方もございます。今、試験的にやっておりますバス路線、例えば今は下館駅南口を出発して工業高校のほうへ行って、幸町を通過して玉戸駅、川島を通過して遊湯館へ行っているとか。今、議員さんからも提案をいただいているのですが、結城から川島、関城を通過して、関城から上妻のほうを通過して、今までありました砂沼のプールの脇を通過して下妻の駅に行くというようなバスも考えておりまして、その中で協和地区にもそのようなバスが、おっしゃるとおり、私は必要だと思っています。

ただ、試験的にやらないと、誰も乗ってくれないということになると、なかなか、気持ちはわかるのですけれども、現実的にどうかという試験運転もしなくてははいけませんので、そして国土交通省の許可も必要でございますので、そういう難しいところはあるのですけれども、交通難民と言われないように、しっ

かりとそこら辺のことも考えていきたいと思っ

ているところでございます。
そして、先ほどから言っております北口でございますけれども、道路は広くなりました。広がったのですが、そしてイベントなどのときには、下館祇園まつりもそうですけれども、あのよう

に多くの方が集まっています。ですから、もっと規制してイベントを多く開くか。また、逆にイベントに頼らないで人の交通、交流ができる、そういうことも考えなくてはいけ

ない。両面からしっかりと考えていかななくてはならないと思っ

ているところでございます。このような施策をいろいろと考えまして、実行に移していき

たいと思っております。

それから、健康のためのまち歩きでございますけれども、現在の健康寿命でございますけれども、男性が72歳、女性が74歳、これは健康の寿命でございます。しかしながら、平均寿命でございますけれども、男性が81歳、女性が87歳でありまして、健康寿命と平均寿命の差を少しでも少なくする。そういう生き生きした生きがいのある地域にしなくてはいけないと思っ

ているところでございます。
筑西市では、昨年10月1日付で「めざせ！ずーっと健康」ということがキャッチフレーズで始まり

ました。それについては、いろいろな各種健康相談や、あるいは健康体操、あるいは健康診査、生活習慣病予防、いろいろとやっているところ

でございますけれども、これが市民の皆様の命を延ばす、健康寿命の延伸につなげるように考えていきたいと思っ

ています。
詳しくは部長に説明をさせますけれども、今提案のあったようなことはしっかりと考えていき

たいと思っております。

以上でございます。
○議長（菊池海空君） 関口企画部長、答弁をお願いいたします。
○企画部長（関口貴一君） 協和中学校の議員さんの、まず1つ目の交通弱者の移動手段の確保についてのご質問にお答えいたします。
筑西市では公共交通網を整備するための計画をつくりまして、公共交通に関するさまざまな事業を実施しているところ

でございます。
筑西市は、面積が広く、10万人の市民の皆様が市内全域に広がって住んでおります。そのため、デマ

ンドタクシー「のり愛くん」で市内全域をカバーした上で、特に人口が集中している地域でバス路線の整備を行って

次に、2つ目の「歩いて楽しいまちづくり」についてのご質問にお答えいたします。

下館駅北口につきましては、道路がきれいに整備されて歩道も広くなっておりまして、徒歩で移動していただくための環境が整っているものと考えております。また、4月からは下館駅周辺でのレンタサイクルをご利用いただけるようになりましたので、自転車を使ったまち歩きを楽しんでいただくこともできるようになりました。

ご提言いただきましたとおり、筑西市は1世帯当たりの自動車保有台数が日本一と言われるほど、マイカーの多い地域ですが、実は鉄道や路線バス、デマンドタクシー「のり愛くん」などの公共交通が比較的発達している地域でもあります。これら公共交通を利用して外出することにより、歩く機会が多くなり、健康にもよい効果があるものと考えております。

健康寿命を延ばすためにも、関係する多くの皆様と協力し合いながら、「歩いて楽しいまちづくり」の実現に努めてまいります。

以上でございます。

○議長（菊池海空君） 中澤保健福祉部長、答弁をお願いいたします。

○保健福祉部長（中澤忠義君） 協和中学校の議員の皆さんの健康寿命に関するご質問にお答えいたします。

介護を受けたり、病気で寝たきりになったりせず、自立して健康で生活できる期間、いわゆる健康寿命につきましては、その延伸のために、がん、心臓病、脳卒中や糖尿病など生活習慣病の予防が重要となります。

現在、死亡原因の第1位は、筑西市も全国もがんでございます。また、筑西市は、心臓病や脳卒中による死亡率も、全国より高い割合になっております。このような中で、人生100年時代と言われるように長寿社会となっております。平均寿命が延びる中で、誰もが元気で長生きしたいと思っているところでございます。

筑西市におきましては、先ほど市長から答弁がありましたように、ちくせい健康づくり都市宣言、昨年10月1日に行いました。そして、昨年度、ちくせい健康総合プランというものをつくりまして、これを基本指針として、家庭や職場、学校、地域と行政が互いに支え合いながら一丸となって各種健康づくり事業をしっかりと進めてまいります。

なお、議員の皆様におかれましては、今が正しい生活習慣を身につけるため大切な時期でございます。これは健康寿命の延伸にもつながります。朝食をしっかりと食べる。適度な運動を行う。十分な睡眠をとる。この3つをお願いしたいと思います。

以上でございます。

○議長（菊池海空君） これをもちまして、前半の部の議長の職を解かせていただきます。ご協力ありがとうございました。

暫時休憩いたします。

休 憩 午後 2時 3分

〔議長 岡村翔洋君議長席に着く〕

○議長（岡村翔洋君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

子ども議会の開催要項により、議長を交代いたしました。

私は、本日の子ども議会で後半の部の議長を務めさせていただきます協和中学校の岡村翔洋と申します。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

それでは、下館中学校、高崎久翔君、川越夢将君、飯島麻加君、お願いします。

〔下館中学校 高崎久翔君、川越夢将君、飯島麻加君登壇〕

○議長（岡村翔洋君） それでは、1つ目の提言、質問をお願いします。

○下館中学校（高崎久翔君） 筑西市の観光のPRについて提言します。

今年の7月11日には、道の駅グランテラス筑西がオープンしました。この道の駅では、筑西市の農産物や特産物を数多く取りそろえていて、筑西市のよさをアピールできるよい場所だと考えました。筑西市には、梨やこだますいかななどの農産物のほかに、和菓子やせんべいなどの銘菓もたくさんあります。そこで、昔からある菓子店と中学生が連携してオリジナルの商品を開発して道の駅で販売すれば、よいPRになると考えました。

中学生がお菓子の内容やデザイン、商品名などを考え、お店の人と相談して商品化します。それを道の駅にしかない限定商品として売り出せば、道の駅に来る人がふえたり、筑西市の菓子店の知名度が上がると思います。また、中学生と一緒に販売に協力することで、若者が地域のよさに気づくよい機会になると考えました。

○下館中学校（飯島麻加君） ここで質問いたします。

中学生と地域の菓子類を製造するお店が連携して、オリジナル商品を開発することは可能でしょうか。また、道の駅で中学生が販売したり、宣伝したりすることは可能でしょうか。

以上です。

○議長（岡村翔洋君） 続きまして、2つ目の提言、質問をお願いします。

○下館中学校（川越夢将君） 筑西市の観光スポットについて提言します。

新しくオープンした道の駅には、東京からの直通バスが出るという話を聞いたので、うまく利用すれば将来的に多くの人を集めることができると思います。また、道の駅には広大な敷地やイベント広場もあるため、定期的にイベントを開催することで筑西市のよいアピールになると思います。

開催するイベントの内容としては、親子で参加するアート作品づくりや農業体験などの体験活動、筑西市周辺のラーメン店が出店するラーメングランプリなどです。筑西市には昔から下館ラーメンがあり、それをもっと他方面にアピールしたほうがよいと思います。

以上のようなイベントが毎年開催され、筑西市が全国的に有名になれば、遠方からの親子連れや若者がたくさん集まるようになると思います。

○下館中学校（飯島麻加君） それでは質問いたします。

道の駅のイベント広場では、どのようなイベントを計画されていますか。また、親子で参加できる体験活動や筑西市周辺のラーメン店が出店するラーメングランプリなどのイベントは定期的に開催できるのでしょうか。

以上です。

○議長（岡村翔洋君） 下館中学校の質問に答弁願います。

須藤市長、お願いいたします。

〔市長 須藤 茂君登壇〕

○市長（須藤 茂君） 下館中学校の議員さんの皆様のご質問にお答えしたいと思います。

観光の宣伝に関するご質問でございますけれども、筑西には、お菓子あるいは農産物を初めといたしまして、先ほど言いました下館ラーメン、常陸秋そば、キングポークなど数多くのおいしい食の資源がございます。

これまでの名品、名産をつくり上げてまいりました市内のお菓子などを製造する企業様と、先ほど言いましたように中学生の皆様のコラボレーション、これは私も非常に大切だと思っているところでございますので、ぜひともこれは実現していきたいと思っているところでございます。

そして、近い将来、道の駅はもとより、さまざまな場所で皆様方とコラボした商品が並べられるように、ひとつご協力をお願いしたいと思っております。

また、道の駅に関する質問でございますが、令和2年、来年の3月31日までに全国で道の駅の数は1,160カ所ございます。一番多いところで、北海道で124カ所あります。茨城県の場合は、たしか道の駅で14カ所目でございます。全国では1,160カ所ということで、それぞれの工夫をしておりますけれども、同じことをやっては負けてしまいますので、今言いましたように、そういうコラボも大切ですので、ぜひともやっていきたいと思っております。

そして、現在、道の駅には、先ほど言いましたように1万人以上の方が毎日来てくださっておりますので、その方たちに、もう1度来たい、もう1度行ってみたいと思っただくためには、イベントも本当に必要なことだと思っております。この間も、スラックライン、5センチ幅の帯を張って、その上で飛んだり跳ねたりする世界チャンピオンが来てくれましたし、下館一高、二高、工業高校の皆様方にもいろいろとやっていただきました。

今、猪瀬土木部長のほうでやってもらっているのですが、安達勇人さんといって、声優、茨城県の観光大使でありますし、この前、挨拶に来ていただきましたけれども、その方に、俳優であり、声優であり、非常に若い青年というのもおかしいですけれども、この方にも9月に入りましたら、あそこでイベントをやっていただく。大勢の方に来ていただく。いろいろなイベントをしっかりと考えて、常に毎日イベント、特に土曜日、日曜日はイベントをやって、多くの方に集まっていただき、筑西という市を知ってもらうように努力をしていきたいと思っております。

今、下館中学校の皆様からご質問いただきましたコラボとイベントは非常に大切でございますので、しっかりとやっていきたいと思っております。

後ほど、また詳しい説明は各部長に説明させますので、よろしく願いいたします。

○議長（岡村翔洋君） 關経済部長、答弁をお願いいたします。

○経済部長（關 紀良君） 下館中学校の議員の皆さんのご質問にお答えいたします。

先ほど市長から答弁させていただきましたとおり、満ちあふれるアイデアをお持ちの中学生の皆様と市内の製造業者様との共同開発により、お菓子などのオリジナル商品を開発していくことは、すばらしい発想であるというように思っております。

県内の例を見ますと、土浦一高でございますけれども、これが菓子製造業の志ち乃さん、しょうゆ醸造業の柴沼醤油さん、蜂蜜製造業の山田養蜂場さんの協力のもと、オリジナルどら焼きの製品化を図ることに成功した事例がございます。このようなことから、オリジナル商品の開発をすることは可能でございます。

また、道の駅で中学生が商品を販売したり、宣伝したりすることは可能かということでございますが、義務教育の皆様が対価を得て労働をするということではできませんが、中学校の授業や生涯学習の一環としての職場体験などの名目であれば可能であるというように思います。

それから、次に2番目の道の駅でのイベントの計画という質問でございますが、先ほど市長が申し上げましたように、道の駅ではオープンに合わせ、下館工業のジャズバンド部、下館二高のダンス同好会、下館一高の吹奏楽部、チアリーディング部、ダンス部などが地元の高校生や市内ヒップホップダンスチーム「ハイスペースラボ」のダンスパフォーマンスや、世界で活躍する選手を招きましたスラックラインパフォーマンスなどを披露していただき、訪れた方々を魅了させていただいたところでございます。

また、ご提案いただいた定期的なイベントにつきましても、当イベントを目的に来訪されるお客様も多く存在するということが想定されますことから、例えば親子で参加できるクラフト体験や地域の食資源を活用したイベントなど、それを継続して開催できるイベントづくりができるよう努めてまいりたいというように思います。また、下館ラーメンにつきましても、お土産用の商品を開発して販売しているというところでございます。

今後、市外、それから県外から来場されたお客様に筑西市の魅力を思う存分味わっていただくためのイベント、これを関係部署と連携を図りながら開催できるよう検討してまいりたいと思いますので、ご理解をお願いしたいと思います。

以上でございます。

○議長（岡村翔洋君） 日向市長公室長、答弁をお願いいたします。

○市長公室長（日向裕次君） 下館中学校の議員さんのご質問にお答えいたします。

中学生の皆さんが、地元の菓子類を製造するお店と力を合わせてオリジナル商品を開発し、そのお店が道の駅などで商品を販売することになった場合におきましては、市の広報紙「ピープル」を初めホームページやSNSなど広くお知らせしてまいります。また、新聞社やテレビ局などの報道機関にもオリジナル商品の情報を提供し、記事として取り上げてもらえるようお願いしてまいります。

また、道の駅グランテラス筑西で開催されるイベントにつきましても、市民の皆さんはもとより、市外、県外の多くの皆さんにお越しいただけるよう、市の広報紙を初めホームページやSNSなどでお知らせす

るとともに、新聞社やテレビ局などの報道機関に情報を提供してまいります。なお、現在、道の駅グランテラス筑西を広くPRするためのプロモーションビデオを製作しているところでございます。

今後とも、交流人口の増加や地域の活性化を図るため、あらゆる手段により筑西市の情報や魅力の発信に努めてまいります。

以上でございます。

○議長（岡村翔洋君） 次に、下館西中学校、和田雄太君、森田琴弓君、中田陽菜君、お願いします。

〔下館西中学校 和田雄太君、森田琴弓君、中田陽菜君登壇〕

○議長（岡村翔洋君） それでは、1つ目の提言、質問をお願いします。

○下館西中学校（和田雄太君） 私は、筑西市のごみの問題について提言いたします。

今年の筑西市では、例年ある夏祭りなどのほかに、国体開催や道の駅の完成などさまざまなイベントが行われます。そこで懸念されるのが、ごみのポイ捨ての増加です。

私は、昨年度、学校のごみ拾いボランティアの一環で、玉戸駅周辺のごみ拾いを行いました。線路沿いや駐輪場付近にはペットボトルや傘、雑誌、菓子の袋などさまざまなごみがたくさん捨てられており、植え込みにも多くのごみが捨てられていました。また、車道にも車から投げ捨てられたと考えられるごみが多く落ちていました。これが筑西市の日常かと思うと、少し悲しい気持ちになりました。

国体や夏祭り、イベント開催の後にはどうしてもごみの問題が出てくると思います。現在、玉戸駅や総合体育館の屋外等にはごみ箱がほとんどありません。また、道の駅も新しくできたということで、これから筑西市に来る人の数もふえると考えられます。ごみが落ちていては筑西市のイメージが悪くなってしまいます。

そのために私たちは、ごみ箱の設置数増加を提言します。ごみの問題は一人一人の意識やマナーも大きく関係すると思いますが、ごみ箱を駅や総合体育館などの施設で日常的に設置していれば、ポイ捨ての数も減らせるのではないのでしょうか。また、そのごみ箱のデザインを工夫したり、ごみ箱の周辺にもマナーアップを呼びかけるポスター等を張ったりすることにより、人々への啓発が図られると考えます。

○下館西中学校（中田陽菜君） ここで質問させていただきます。

国体や道の駅等の集客による影響としてポイ捨てをはじめ、ごみの問題が出てくると思います。人々のマナーや意識が問われる問題ではありますが、国体開催時や道の駅をはじめ多くの人が集まる中、ごみ問題に関連して何か対策はあるのでしょうか。また、マナーアップを呼びかけるポスターなどの啓発活動は行われているのでしょうか。

○議長（岡村翔洋君） 続きまして、2つ目の提言、質問をお願いします。

○下館西中学校（森田琴弓君） 筑西市の環境問題について提言いたします。

現代では、地球温暖化をはじめとする環境問題が大きな課題となっています。最近ではプラスチックごみが話題となっています。ごみを減らしたり、花を植えたりするなどの努力を住民一人一人が意識をして日々の生活を送っていくことができれば、持続可能な社会の実現に近づけると思います。

持続可能な社会の実現のために、リサイクルの活性化を提言します。例えば、リサイクルステーションの利用日時の拡大やリサイクル品の情報提供、リサイクル品やリサイクルアートの展示会などのイベント

開催など、住民にリサイクルについてより知ってもらえれば、リサイクルを意識して生活できるのではないのでしょうか。

リサイクルステーションは、現在、平日、土曜の午前9時から午後4時30分までとなっていますが、利用日時をより拡大すれば、ふだん仕事をしている人でも利用しやすくなります。

また、リサイクルに出したものが新たな製品として、芸術作品としてなど、どのように生まれ変わっているのかを知ることができれば、リサイクルに出そうという気持ちが強くなり、意識改革につながるのではないかと考えます。

○下館西中学校（中田陽菜君） ここで質問させていただきます。

リサイクルステーションの利用日時の拡大や利用しやすくする工夫はありますか。また、筑西市の美化活動の一環として、リサイクルされたものがどのように利用されているかの情報公開や、環境をよりよくするためのイベントや啓発など何か取り組みは行われているのでしょうか。

○議長（岡村翔洋君） 下館西中学校の質問に答弁願います。

須藤市長、答弁をお願いいたします。

〔市長 須藤 茂君登壇〕

○市長（須藤 茂君） 下館西中学校の議員さんの皆様のご質問にお答えいたします。

やはりごみ問題というものは永遠の課題でありまして、いつまでもほっとくわけにはいかないわけですので、いろいろな工夫が必要だということですのでございます。それで、イベントあるいは事業所で発生するごみでございますけれども、事業所系の廃棄物となりまして、イベントをやっている方、あるいは事業所の責任で処理することとなっております。それで、国体や道の駅につきましてでございますけれども、市内外から多くのお客様に来ていただきますので、きれいな筑西市のイメージを持っていただけるような施策を考えているところでございます。

次に、環境問題に対する取り組みでございますけれども、ご指摘のとおり環境問題に対処するためには、我々行政だけでは到底なかなか、甘えるわけではありませんが、できる問題ではなくて、関係機関あるいは地域の住民の皆様方にご協力いただきまして、みんなでごみ問題も考えていかななくてはならないと思っています。

本市におきましても、筑西市環境基本計画に基づきまして、豊かな自然環境を次の世代につなぐためにも積極的に取り組んでいくところでございます。

先ほど提言ありましたごみ箱の制限、あるいはデザイン、ポスター等々、それからリサイクルの展示会、これもいい質問だと思います。そういうこともいろいろ含めまして、ごみ問題をしっかりと考えていきたいと思っております。

詳しいことは部長に説明させます。

以上でございます。

○議長（岡村翔洋君） 鈴木市民環境部長、答弁をお願いいたします。

○市民環境部長（鈴木建國君） ご答弁申し上げます。

市長からの答弁にありましたように、イベント、事業所で発生するごみは事業系廃棄物として、イベン

ト運営者、事業者の責任のもとに処理されることとなっております。

国体は市が運営者となり、期間中は会場となる総合体育館にごみ箱を設置するとともに、環境ボランティアによってごみの散乱防止を図ることを計画しております。

続きまして、道の駅につきましては、株式会社ちくせい夢開発が運営を行っておりますが、燃えるごみ、瓶、缶等それぞれにごみ箱を設置して、ごみの散乱防止に努めるとともに、清掃員を配置して施設の美化を図る計画となっております。

ごみ散乱を防止するためには、事業者の取り組みに加えて、市民や来訪者のマナーやモラルの向上を図ることは当然大切ではございますので、今後、市ホームページや広報紙等を活用して啓発に努めてまいりたいと考えております。

続きまして、リサイクルステーションの利用日時の拡大等についてお答え申し上げます。利用日時の拡大等の工夫でございますが、支所に設置されているリサイクルステーションでは、過去には支所の閉庁時にも資源ごみの受け入れをしておりましたが、その際、一般ごみが出される、分別されていないなどのゴミ出しマナーが守られない事例が多発したため、現在は支所の開庁時に限り資源ごみの受け入れをしております。下館地区のいつでもリサイクルステーションも、3カ所全てが公民館の敷地内に設置されており、ごみ出しマナーや施設管理の都合上、受け入れ日時を拡大することは、現時点では困難というふうに考えております。

続きまして、環境関連のイベント、啓発などでございますが、本市では広報紙やホームページなどを活用し、食品ロスの削減や小型家電のリサイクルを呼びかけております。また、市民団体やボランティアと協力し、市内全域で行う環境美化活動であるクリーン作戦や省エネを呼びかける街頭キャンペーンなどを行っております。そのほかにも、自治会、市民団体が主体となって、廃タイヤ及び家電品等の回収や、まちの景観をよくするための花いっぱい運動の推進、霞ヶ浦の水質浄化啓発活動など、市内では環境に対するさまざまな取り組みが積極的に行われているところでございます。

リサイクルを推進していく上で、ごみを出す方が積極的に分別に取り組んでいただくことは非常に重要でございますので、リサイクルに対する理解を深める広報活動にも積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（岡村翔洋君） 次に、下館南中学校、深谷麻衣君、森澤華凜君、菊池海空君、お願いします。

〔下館南中学校 深谷麻衣君、森澤華凜君、菊池海空君登壇〕

○議長（岡村翔洋君） それでは、1つ目の提言、質問をお願いします。

○下館南中学校（深谷麻衣君） まず、1つ目の提言をさせていただきます。

私たち中学生にとって、授業はもちろん部活動は、学校生活において大きな役割を担っています。私たち下館南中学校はどの部活も活発に活動しており、昨年度は陸上部が全国大会出場を果たしています。近年では部活動のあり方が見直され、効率的な短時間での練習を推進する取り組みが各校、各郡市でなされているところです。しかし、そのためにはスポーツを始めたり、取り組んだりしやすい環境づくりや効率的に技術を向上させる施設が必要だと思っております。

○下館南中学校（菊池海空君） ここで質問させていただきます。

小学生や中学生が気軽に利用できる体育施設の建設など、市で強化していこうとしているスポーツ事業はありますか。また、短時間の部活動で効果的に技術を向上するために必要なトレーニング器具購入などの予算を組んでいただくことは可能ですか。

○議長（岡村翔洋君） 続きまして、2つ目の提言、質問をお願いします。

○下館南中学校（森澤華凜君） 現在、私たち中学生はタブレットを使用して充実した学習を展開しています。授業で疑問に思ったことをインターネットを利用して調べたり、学習して導き出した意見をクラスメートと共有したりと、学習の質は向上し、効率よく学ぶことができます。しかし、私たちの中学校は、他の市町村と比べると機器の台数やインターネット環境においてまだまだ格差があるように感じます。ほかの市町村では生徒数分のタブレットが完備されていたり、学校全体に無線のLANが通っていたりする学校が多くあると聞きます。現在、私たちの中学校は、タブレットの台数は2クラス分、台数を振り分けたとしても、ルーターの個数の関係で同時に3教室でしか利用することができません。

○下館南中学校（菊池海空君） ここで質問させていただきます。

筑西市内の全ての学校でタブレットの台数を追加することは、予算の都合上、難しいと思います。インターネット環境(無線LAN)等の整備を行っていただくことは可能でしょうか。

○議長（岡村翔洋君） 下館南中学校の質問に答弁願います。

赤荻教育長、お願いいたします。

〔教育長 赤荻利夫君登壇〕

○教育長（赤荻利夫君） 下館南中学校の議員さんのご質問に答弁いたします。

各小中学校にある体育館、それから先ほど説明しました市の体育館や野球場、サッカー場等、23の施設などを使って、皆さんの体力の向上に努めていただいているわけでありますけれども、現在、筑西市で小学生や中学生が気軽に利用できる体育施設の建設や技術を向上させるために必要なトレーニング器具の購入など、市で取り組んでいる事業や予算措置は、残念ながら行っておりません。

現在、教育委員会で取り組んでいる事業は、毎年12月の第2日曜日に、ちくせいマラソン大会を実施しております。小学生から一般成人まで、去年は4,300人の幅広い方々に参加をいただいている大会であります。

教育委員会としましても、技術力向上のための施設整備も重要と考えますが、まずは小学生、中学生の皆さんが学校教育の中でスポーツの楽しさや喜びを味わっていただき、生涯にわたって豊かなスポーツライフが送れるための環境づくりを重視して進めてまいりたいというふうに考えております。

また、先生等にご要望等を出していただいて、教育委員会と連携して、できるだけそういうもので可能なものについては整備をしていくことには変わりはありませんので、先生方とよくご相談の上、教育委員会のほうに要望を上げていただきたいなというふうに思っております。

次に、インターネット環境に関する質問でございますが、パソコン教室の情報機器については、平成28年度より、従来のデスクトップ型から持ち運びのできるタブレット型パソコンの導入を行っており、今年度整備を行う明野中学校をもって、市内全校へのタブレット展開が完了することになっております。

タブレットやインターネットの整備は、現在の情報化社会の中で非常に重要なことでありまして、来年度からは小学校においてもプログラミング教育が必修化するなど、今後の学習活動において積極的にパソコンなどの機器を活用することが想定されております。

昨年度、文部科学省よりコンピューター環境の整備方針が発表されましたが、さまざまな整備目標の一つにも、ご質問にあった普通教室、特別教室の無線LAN環境の整備が挙げられておりますので、目標を目指して整備を推進していきたいと考えております。

詳しいことにつきましては、担当部長から答弁させていただきますので、よろしくお願いいたします。

○議長（岡村翔洋君） 小野塚教育部長、答弁をお願いいたします。

○教育部長（小野塚直樹君） 下館南中学校の議員の皆さんのご質問に答弁いたします。

先ほど教育長が申しあげましたように、現在、筑西市で強化しているスポーツ事業、そういったものは残念ながらございません。しかしながら、各中学校では部活動が大変活発で、県西、県大会での活躍は目覚ましいものがあるところでございます。

そして、ご質問の短時間の部活動で効率的に技術を向上するために必要なトレーニング器具の購入についてでございますが、現在、下館総合体育館のトレーニングルーム、それから協和の杜体育館にもトレーニング室がございます。そういった器具は整備しておりますが、小中学校の児童生徒さん専門に設置しているものではございません。

教育委員会としましては、トレーニング器具を使って強化しまして、試合、大会などで勝つことを重視しているものではございません。体格的にも成長期にある生徒の皆さんにとって、過度な負担となることのないよう、あくまでも学校教育、それから部活動の範囲の中で頑張りたいと考えているところでございます。

そして、2つ目、インターネット環境についてのご質問でございます。市内の小中学校での無線LANにつきましては、平成27年度から順次整備しまして、昨年度で全ての小学校、中学校で初回の導入が済んだところでございます。導入につきましては、持ち運びができる無線LANのアクセスポイントを各学校に、小さい学校、大きい学校ありますので、3台から6台整備しました。予算の都合上、この導入時には全ての教室に無線LANアクセスポイントの設置はできませんでしたが、今後、順次台数を増設しまして、ゆくゆくは普通教室、それから特別教室等にも常設しまして、使いたいときにインターネットを利用できるような環境整備に取り組んでいく考えでございますので、ご理解をお願いしたいと思います。

以上でございます。

○議長（岡村翔洋君） 次に、下館北中学校、川崎望鈴杏君、一本杉絢乃君、白井康聖君、お願いします。

〔下館北中学校 川崎望鈴杏君、一本杉絢乃君、白井康聖君登壇〕

○議長（岡村翔洋君） それでは、1つ目の提言、質問をお願いします。

○下館北中学校（川崎望鈴杏君） 私たちは、筑西市における登下校防犯プランについて提言します。

最近、小中学生が不審者による事件に巻き込まれたというニュースをよく見かけます。それらはかなり身近なことであり、他人事ではありません。実際に筑西市内でも数多く発生しており、非常に怖い思いをしている人がいます。そのたびに警察の方や地域の方、先生方や保護者の方々が見回り等の対応をしてく

れていますが、その後も事件は後を絶ちません。

新潟市で昨年5月に起きた下校時の小学生が狙われた事件をきっかけに、文科省から登下校防犯プランが制定されています。国は集団登下校を推奨したり、学校や住民、警察などが連携し、犯罪が起きやすい場所を確認したりして、特に警戒するように求めています。しかし、今回川崎市で起きた事件のように、集団登下校の中で事件が起きた事例もあります。対策をとりながらもこのような事態になってしまう現状がある今、不審者から身を守る対策レベルに上限はないと私は考えます。

筑西市の防犯対策は、私たちの住む地域の実態に合っているのでしょうか。そこで、登下校防犯プランに重複する課題点を2つ挙げさせていただきます。1つ目は、既存のボランティアの高齢化や共働き家庭の増加により地域の目が減少していること。2つ目は、家と家が離れていることにより、最終的に一人で下校することになってしまうことです。千葉県警の資料によると、不審者事件の被害は一人であるときに7割を占めているとのこと。このことから、私たち中学生も含め、地域の防犯意識を高め、事件を未然に防ぐ対策を考えることが今必要だと考えます。

以上です。

○下館北中学校（白井康聖君） ここで質問させていただきます。

私たち中学生としては、事件が起きた後の手厚い対応よりも、事件を未然に防ぐ対策に特に力を入れてほしいと考えます。茨城県警が出している不審者情報マップのように筑西市の登下校区間の危険箇所が見える化してあると、少ない地域の目でも防犯効果の効率を上げることができると思います。筑西市の小中学生の通学区間の情報を地域で共有することは可能でしょうか。また、筑西市に登下校防犯プランのような計画はありますか。

以上です。

○議長（岡村翔洋君） 続きまして、2つ目の提言、質問をお願いします。

○下館北中学校（一本杉絢乃君） 自然災害時における対応や準備について提言します。

近年、全国各地で異常気象が発生しており、昨年の夏は大雨の影響で河川の氾濫が危険視され、私たちの学校の体育館が避難所になるかもしれないという話が出たということを知りました。また、昨年の10月には中学生防災講座を受け、茨城大学の講師の先生や茨城県測量・建設コンサルタント協会の方を中心に災害時の被害想定やハザードマップの確認、避難所の確認などをしていただきました。もし下館北中学校の体育館が本当に避難所になったときに、しっかりと避難所としての役割を果たすことができるのでしょうか。

現在学校に支給されている防災品はジェットストーブ1台とガス発電機だけであることや、非常食を含む地域の防災品は地域の備蓄庫に保管されていることも伺いました。しかし、本当に下館北中学校の体育館が避難所として使用される場合、前例のない大災害であることが想定されます。そのような状況下の中では、備蓄庫からの運搬が困難になる状況も可能性として考えられます。つまり避難所として指定されている以上、地域の方が避難してきたときに備えて、最低限の非常食や飲料水、応急手当ができる準備が必要だと考えます。また、避難後の二次災害を防ぐための暑さ対策や寒さ対策などの準備も必要だと考えます。

以上です。

○下館北中学校（白井康聖君）　ここで質問させていただきます。

危険箇所の補強工事などの表面的な対策をどれだけしても、実際にはそれを超えて災害は起こっています。予測できない自然の脅威からの被害をできるだけ小さくし、かつその中で私たちの命をどう守るかが防災に問われていることだと思います。もしものとき命を守るために避難所に避難する私たち地域住民からすると、そこに最低限の防災品が常備されている現状があると安心できます。

筑西市の防災対策として、避難所に指定している場所には最低限の防災品を準備していただくことは可能でしょうか。

以上です。

○議長（岡村翔洋君）　下館北中学校の質問に答弁願います。

須藤市長、お願いいたします。

〔市長 須藤 茂君登壇〕

○市長（須藤 茂君）　下館北中学校の議員さんにお答えをいたしたいと思います。

2つ目の自然災害時の対応あるいは準備についてでございますけれども、議員さんご存じのとおり、近年の大規模な自然災害は想像をはるかに超えているというところでございます。私も市長といたしまして、市民の皆様様の生命、財産を第一に考え、当たり前のお話でございますけれども、心がけているところでございます。

ただいまご質問にありましたように、筑西市内の指定避難所への防災品の準備につきましては、皆様様のさらなる安心安全のために検討してまいりたいと思いますが、詳しいことは、この後、担当部長に詳細を説明させたいと思います。

それで、皆様方にお聞きしたいと思うのですが、災害が起きる、そういうときに一番大切なのは何かと申しますと、自助、共助、公助というものがございます。自分の命は自分で守る、これが前提でございます。大きな災害が起きた場合、国あるいは県、あるいは市から、市も災害を受けているわけでございますので、一斉に公共的、公助的な災害に対する、それはできないわけでございます。まず自分の命は自分で守るという自助、それを第一に心がけていただきたいと思います。そして、次に共助。協力して協働で助け合う。そして、その次に公助ということでございまして、再度繰り返しますが、自分で自分の生命、財産を守る、これは心がけていただきたいと思っているところでございます。

日ごろからご自宅における安全対策というものをもう一度考えて、中にいるときにはどうしたらいいか。外に出ているときに災害に遭ったときにはどうしたらいいか。いろいろ自分自身も考えていただきたいと思っているところでございます。公助が最後と言いましたけれども、もちろん市といたしましては、議員さん、執行部ともども生命、財産を守るように一生懸命努力いたしますけれども、そういう心がけでぜひともやっていただきたいと思っているところでございます。

あとは担当部長に説明させますので、よろしく申し上げます。

以上でございます。

○議長（岡村翔洋君）　赤荻教育長、答弁をお願いいたします。

[教育長 赤荻利夫君登壇]

○教育長（赤荻利夫君） 下館北中学校の議員さんのご質問に答弁させていただきます。

私たちが、校長先生と連携をしながら、子どもたち、小中学生の命と安全安心は何が何でも守り抜く強い決意を持って臨もうということで、いろいろと対策を立てさせていただいております。なかなかまだまだ浸透していない部分はありますけれども、一生懸命やらせていただいて、今、市長さんからありましたとおり、自分の命は自分で守るということを考えながら、皆さんの命を守るために私たちも一生懸命努力をさせていただきたいというふうに思っています。

具体的に申しまして、筑西市の登下校区間の危険箇所の見える化につきましては、筑西警察署管内は表示されておりませんが、その必要性は認識しているところでありまして、現在、筑西警察署内においても表示について検討しているところでございます。

本市としましても、登下校区間の危険箇所の見える化は大変重要なことと認識をしておりますが、既に茨城県警でシステムを導入していることや、現在、筑西警察署において当システムへの表示を検討していることから、このシステムの活用を考えているところでございます。

また、筑西市の小中学生の通学区間の情報を地域で共有することでございますけれども、可能である一方でその取り扱いについては十分注意が必要であると考えております。皆様とともにしっかり考えて、今後検討してまいりたいというふうに考えております。

さらに、筑西市に登下校防犯プランのような計画はあるかのご質問でございますけれども、筑西市では、「通学路交通安全プログラム～通学路の安全確保に関する取組の方針～」を作成しております。このプログラムは、通学路の安全確保を図るために筑西市で、下館中学校、下館北中学校のブロックを1つにすることと、あと5つのブロック、合わせて6つのブロックで、毎年1ブロックずつ通学路の安全確保するため合同点検を行うものです。この合同点検を6年に1回ずつ各中学校区で行っておりまして、危険箇所の状況や内容及び対応内容や予定を対応一覧表としてホームページに掲載するとともに、地図上に危険箇所及び対応を示したのもホームページに掲載しているところでございます。

さらに、昨年5月の新潟市内の事件を受けて、市内小学校及び教育委員会では、警察等と連携した緊急の合同点検を行って、防犯対策も含めた危険箇所を抽出し、その安全対策を進めてきております。今後とも通学路等の安全確保対策に努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

また、この後、詳しいことにつきましては担当部長から答弁させていただきますので、よろしくお願いいたします。

○議長（岡村翔洋君） 小野塚教育部長、答弁をお願いいたします。

○教育部長（小野塚直樹君） 下館北中学校の議員の皆さんのご質問、不審者対策について答弁申し上げます。

ただいま教育長からご説明、答弁があったとおりでございますが、ほかにも筑西市では、子ども、児童生徒の登下校中の安全確保の対策としまして、いざとなったときの避難場所となる「こどもを守る110番の家」の制度、これは看板をごらんになることもあるかと思うのですけれども、そういった「こどもを守る110番の家」、そして地域子ども安全ボランティア、これは登下校のときに、特に登校のときに一緒に歩い

ていただける地域の方々です。そういった制度を10年以上にわたって実施しているところでございます。

しかし、その一方、こういった見守り活動にも限界があります。見守りの空白地帯、そういったことを埋めるため、現在、子どもの安全対策のさらなる一つとして、ながら見守りというものをお願いしているところでございます。

このながら見守りというものは、具体的には、児童生徒が下校します、特に午後3時から午後5時の時間帯に、例えば散歩コースを変更していただくなど、通学路を散歩していただくといったこと。それから、もう1つは、自宅前で庭のお仕事、庭の手入れなどの合間に、登下校、特に下校する児童生徒を見守っていただくといったことで、何かをしながら児童生徒の皆さんの見守りをしてもらおうというものでございます。本日お集まりの議員の皆様におきましても、自宅に帰りましたら、こういったながら見守りのご協力を周りの方をお願いしていただければと思います。

そして、今後とも登下校における児童生徒の安心安全の確保のために、特に筑西市では地域の子供は地域で守るといった言葉を合い言葉にいろいろなボランティア活動をお願いしているところでございます。ただ、そういったことでも、学校、それから教育委員会といった行政だけでは、まだ十分ではございません。今後の方向性としましては、各小学校区において、学校、そしてPTA、それから地域の住民の皆様、そして教育委員会、そういった各関係機関が一体となって継続的に児童生徒の安全確保についてかかわっていただける組織づくり、そして環境の整備を進めているところでございます。

以上でございます。

○議長（岡村翔洋君） 鈴木市民環境部長、答弁をお願いいたします。

○市民環境部長（鈴木建國君） 防災対策についてご答弁申し上げます。

現在、下館地区の二木成、関城支所、明野地区の海老ヶ島、協和支所の4カ所の防災倉庫及び市役所スピカ本庁舎内におきまして、非常食や防災資機材などの災害用備蓄品を集中管理しており、災害時には各防災倉庫及びスピカ本庁舎から開設されました指定避難所に必要な災害用備蓄品を運搬することとなっております。

また、備蓄品を運搬するための道路が災害によって寸断され、通行できないときなどは、県や自衛隊に対しまして防災ヘリコプターの運航を要請し、空から運搬するとともに、災害時の応援協定を結んでいる県内各市町村や市内の66事業所からもさまざまな分野で支援していただける体制を整えております。

ご質問のように、各指定避難所となる市内の小中学校に災害用備蓄品を備えておけば、被災された方々に対して、より迅速な物資の提供が可能となりますので、指定避難所の機能強化に資するものと思われま。しかしながら、1基130万円から200万円かかる防災備蓄倉庫の整備、土地の確保など、多くの問題がございます。

今後、教育委員会、各学校と連携を図りながら、例えば空き教室を活用できるかななどのさまざまな方法を検討してまいりたいと考えております。

○議長（岡村翔洋君） これをもちまして、一般質問を終了いたします。

日程第4、赤荻教育長の講評をお願いいたします。

〔教育長 赤荻利夫君登壇〕

○教育長（赤荻利夫君） 21名の子ども議会の議員の皆さん、本当にご苦労さまでした。

ここが筑西市の市議会の議場です。ここは、10万1,000人ちょっといる筑西市の中から、24人の選ばれた議員さんが来まして、年に決まった議会が4回、市長さんのご指導を受けて、ここにおられる部長さんや市役所の職員さんたちが一生懸命市民の生活にとって何がいいのか、市民の安全が守れるのかとか、市が元気になるようにとか、そういうことを考えたアイデアを出して、それにお金をつけます。予算をつけて、こういうことをしてみよう、ということを考えて提案しまして、それでそれについて、いや、もう少しこっちに力を入れてみよう、いや、ここにもう少し力を加えたら、もっともっと市民の皆さんの生活がよくなるのではないかと。市長さんが最初におっしゃってくださったようなことでやっているのが、この市議会の議場です。

どうでしょう、皆さん。私は、中学生のときにこういう経験をできたというのはすごいことだ、すばらしい経験だったというふうに私は思っています。なぜかといいますと、18歳。皆さんは13、14歳かな。ですから、あと4年、5年後には選挙権を持ちます。先週の21日にあったように、あれは国会議員の参議院の議員さんの選挙でした。茨城県では地方区の議員さんが2人割り当てられていますけれども、5人の立候補者がいまして、その選挙をやりました。ですから、決してそんな遠い話ではないのです。4年後、5年後には皆さんが1票を投じて、そして国のことも、県のことも、市のことも一生懸命やってくれる人を選ぶ、そういう機会を持つことになっています。

菊池海空議長さん、岡村翔洋議長さん、本当にご苦労さまでした。最初は大変緊張した面持ちで自分たちの出番を迎えたようでありましたけれども、議長さんのスムーズな進行で、堂々とした態度で立派に役割を果たすことができたというふうに思います。

自分の考えや意見をまとめて皆さんにお伝えするという事は、とても難しいことです。しかし、自分たちの中学校生活にかかわる質問だけではなくて、きょうは商店街の活性化やまちづくり、高齢化に伴う公共交通のあり方や観光PRの方法など、皆さんが感じている筑西市の未来について鋭い内容の提言や質問をしていただきました。また、ごみの問題やパソコンの問題等学校教育、あるいは今最も対策に力を入れなければいけない防犯や防災の問題など、皆さんが日ごろから問題意識を持ち、勉強されているなど改めて感じ、大変うれしく思いました。加えて、答弁やほかの議員さんの提言、質問に耳を傾けている皆さんの態度、本当に立派でありまして、メモをとりながら聞いてくださったり、目をきちっと向けて、応援をするように見てくださったりして、私は皆さんの座席での態度も見させていただいて、大変頼もしく思いました。このことは、きょうこの議場におられる皆様方も全て同じように感じてくださったことだというふうに思っています。

21名の子ども議員の皆さんにおかれましては、本日の体験をこれからの学校生活や今後の人生に生かして、大きく成長していただきたいというふうに思っております。

そして、この筑西市は、そう遠くない将来、皆さんの手に委ねられてまいります。願わくば、先ほど申しましたとおり、この21名の皆さんの中から、いずれ筑西市議会の議員さんになられたり、あるいは我々の市役所の職員、行政マンとして活躍してくれる方がたくさん出てくれることを心から願っております。

会場の皆さん、本当にきょうはありがとうございました。どうぞこのすばらしい21名の子ども議員の皆

さんに大きな拍手をお願いいたします。きょうは本当にご苦労さんでした。（拍手）

議員の皆さん、本当にありがとうございました。

結びになりますが、このようなすばらしい子ども議員に対しまして、これまでご指導いただきました各中学校の校長先生方、そしてご指導いただきました先生方、あるいはこの子ども議会にご理解をいただきました保護者の皆さんをはじめ議員さんもたくさんお見えになってくださっております。関係の皆様方に心から感謝を申し上げますとともに、これからますます筑西市をよくするために皆さん子どもの力と、それから私たち大人の力を結集して、すばらしい筑西市をつくるためにお互いに頑張っていきたい、そういうふうに思っております。きょうは教育委員さんもおいでになってくださっております。心から感謝を申し上げます。

以上をもちまして講評にかえさせていただきます。本日はまことにありがとうございました。終わります。

○議長（岡村翔洋君）　ありがとうございました。

これをもちまして、令和元年度筑西市子ども議会を閉会いたします。

長時間、大変お疲れさまでした。

それでは、後半の部の議長の職を解かせていただきます。ご協力ありがとうございました。

閉　　会　午後　３時２７分